

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	気仙沼市立松岩中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	18
生徒数	92	100	85	3	280	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ力を育てる学習指導
- 個に応じた指導と評価の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科
学力の向上には、一部の教科に限らず、全教科からの指導や支援が不可欠であると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を育てる学習指導 - 個に応じた指導形態と評価活動の工夫を通して -</p> <p>研究の見通し（仮説） 各教科において、次のような手だてを講ずれば、自ら学ぶ力を育てることができるであろう。</p> <p>個に応じた指導形態の工夫</p> <p>ア 生徒一人一人の実態を的確に把握する。 イ 指導目標の明確化を図り、授業設計に生かす。 ウ 生徒一人一人の実態に応じた指導形態を取り入れる。</p> <p>評価活動の工夫</p> <p>ア 目標準拠評価（絶対評価）を設定し、生徒一人一人の到達度を明確にする。 イ 個人内評価を積極的に活用し、学習意欲の喚起を促す。</p> <p>研究の内容・方法（理論研究段階）</p> <p>個に応じた指導形態の工夫</p> <p>ア 実態調査の実施 NRT, CRT, 諸調査の実施と実態把握 個人カルテ（補助簿）の工夫</p> <p>イ 指導目標の明確化と授業設計の工夫 目標分析、学習過程の工夫、多様な学習活動の展開 教材の開発（興味や意欲の喚起）</p> <p>ウ 指導形態の工夫 発展的学習・補充的学習のとらえ方 少人数指導の工夫（数・英）</p> <p>評価活動の工夫</p> <p>ア 目標準拠評価の設定 評価規準と基準の設定</p> <p>イ 個人内評価の重視 自己評価活動等の工夫</p>
----------------	--

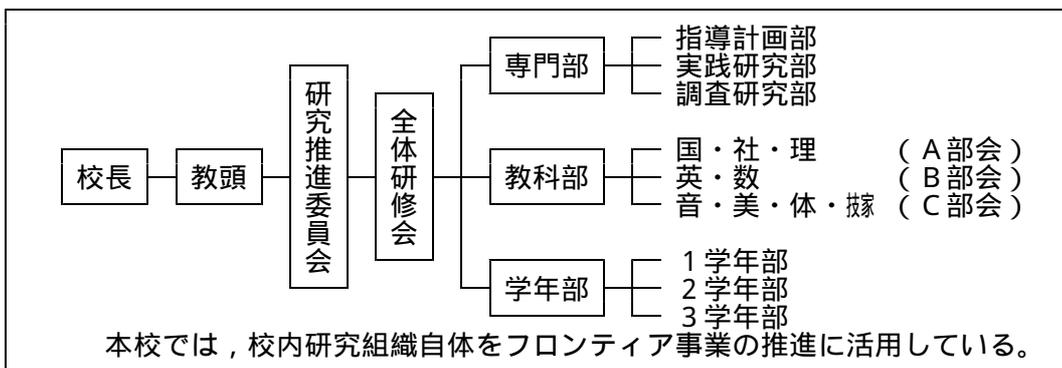
平成 15 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を育てる学習指導 - 個に応じた指導と評価の工夫を通して -</p> <p>研究の見通し(仮説) 各教科において、次のような手だてを講ずれば、自ら学ぶ力を育てることができるであろう。</p> <p>個に応じた指導の工夫 ア 生徒一人一人の実態と変容を的確に把握する。 イ 指導目標の明確化を図り、指導計画や授業設計に生かす。 ウ 生徒一人一人の実態に応じ、多様な指導の場を取り入れる。</p> <p>個に応じた評価の工夫 ア 目標準拠評価(絶対評価)を設定し、生徒一人一人の到達度を明確にする イ 個人内評価を積極的に活用し、学習意欲の喚起を促す。</p> <p>研究の内容・方法(理論・実践研究段階) 個に応じた指導の工夫 ア 実態調査の実施と変容の把握 NRT, CRT, 諸調査の実施と実態把握 個人カルテ(補助簿)の作成と活用 イ 指導目標及び指導計画の明確化と授業設計の工夫 目標分析, 学習過程の工夫, 多様な学習活動の展開(個別化・個性化) ウ 教材の開発と累積(習熟度に応じた教材開発) 指導の場の工夫 発展的学習・補充的学習の実践研究(選択教科の在り方) 少人数指導の実践研究(数・英) 学習相談の実施 基本的学習習慣の育成 スキル学習の設定</p> <p>個に応じた評価の工夫 ア 目標準拠評価の設定 評価計画表の作成 イ 個人内評価の重視 評価によるフィードバック機能の活用</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を育てる学習指導 - 個に応じた指導と評価の一体化の工夫を通して -</p> <p>研究の見通し(仮説) 各教科において、次のような手だてを講ずれば、自ら学ぶ力を育てることができるであろう。</p> <p>個に応じた指導の工夫 ア 生徒一人一人の実態を的確に把握する。 イ 指導目標の明確化を図り、指導計画や授業設計に生かす。 ウ 生徒一人一人の実態に応じ、多様な指導の場を取り入れる。</p> <p>個に応じた評価の工夫 ア 目標準拠評価(絶対評価)を設定し、生徒一人一人の到達度を明確にする イ 個人内評価を積極的に活用し、学習意欲の喚起を促す。</p> <p>研究内容・方法(実践研究段階) 個に応じた指導の工夫 ア 実態調査の実施と変容の把握 NRT, CRT, 諸調査の実施と実態把握 個人カルテ(補助簿)の工夫・改善 イ 指導目標及び指導計画の明確化と授業設計の工夫 目標分析, 学習過程の工夫, 多様な学習活動の展開(個別化・個性化) ウ 教材の開発と累積(地域の素材(含:人材)の活用) 指導の場の工夫 発展的学習・補充的学習の実践研究(全教科) 少人数指導の実践研究(数・英) 学習相談の実施 基本的学習習慣の育成 スキル学習の設定</p>
----------------	---

家庭や地域との連携
 個に応じた評価の工夫
 ア 目標評価の設定
 評価計画表の運用と改善
 イ 個人内評価の重視
 評価によるフィードバック機能の活用

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

NRTやCRT、及び生徒実態調査により本校生徒の全体像をとらえるとともに、個々の生徒の実態を把握することができ、指導や支援の手掛かりを得ることができた。

個の実態を重視し、評価規準や評価基準を取り入れた授業設計を工夫をしたことは、特に到達の不十分な生徒に対する教師の支援を行う上で有効であり、指導の視点が明確になった。

補充的な学習の場として、「学習相談日」や「すいすいスタディ」を設定したことは、学習の場を広げ、学習内容の基礎・基本の定着や学習時間の保障に有効であった。

資料：学習相談日についてのアンケート結果（N=268人、全校生徒）

とても有意義・どちらかといえば有意義... 219人(81.7%)

無意味・どちらかといえば無意味..... 49人(18.3%)

少人数指導は、生徒の好む学習形態の一つで個々の生徒の実態に応じたきめ細かな指導として有効であり、学習内容の定着度にも高まりが見られる。

資料：取り組みやすい勉強の形（N=180人、2・3年生のみ）

【数学】 【英語】

一斉指導..... 36人(20.0%), 30人(16.7%)

TT指導..... 31人(17.2%), 52人(28.9%)

少人数指導..... 113人(62.8%), 98人(54.4%)

資料：NRTの比較結果

数学：偏差値平均45.8(H14.4) 48.2(H15.4) 現2年生

英語：偏差値平均48.0(H14.4) 48.9(H15.4) 現3年生

「振り返りカード」の活用は、家庭との橋渡しにもなり、基本的学習習慣の確立の一助となった。

2. 今後の課題

個の変容を測り、具体的な支援を施すための手だてをさらに工夫していきたい。(個人カルテ等の作成・活用)

コース毎に応じた課題や教材(発展・補充)をさらに工夫することにより、一層、学力の定着と向上が図れるものとする。(実践例の累積)

基本的学習習慣の確立を図るための方策を検討していきたい。(家庭との連携強化)

地域素材の教材化に努めていきたい。(人材バンクの設置)

学力把握のための学校としての取組

学力検査の実施... 4月：NRT（全学年，全教科）
2月：CRT（全学年，全教科）
目的 学力の変容を数的にとらえ，指導に生かすため。
意識調査の実施... 7月・2月：少人数指導等についての意識調査（全学年）
10月：学習全般についての意識調査（全学年）
目的 学習状況（学習への構えや取り組みの様子）を把握し，指導に生かすため。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【平成15年度実績】
松岩中学校オープンスクールの開催
（日時：平成15年10月22日，場所：本校，対象：志津川教育事務所管内の小・中学校，目的：情報の発信）
HPの開設（平成15年10月開設 <http://www.k-macs.ne.jp/~matu-jh>）
リフレット・パンフレットの作成と頒布
各種研修会（管内教育課程研修会）での発表
来校者への説明，他校への資料の送付
【平成16年度予定】
松岩中学校オープンスクールの開催
（日時：平成16年10月下旬，場所：本校，対象：県内の小・中学校，目的：情報の発信）
HPの更正と追記（<http://www.k-macs.ne.jp/~matu-jh>）
資料（リフレット，パンフレット）の作成と頒布
各種研修会での発表
来校者への説明，他校への資料の送付

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無